



佐倉市
新町遺跡

令和4年度

最新出土考古資料展



印西市
東海道遺跡

佐倉市
佐倉城跡

ごあいさつ

このたび、(公財)印旛郡市文化財センターでは前年度に続き25回目となる「最新出土考古資料展」を開催いたします。今回は縄文時代の集落跡が検出された印西市東海道遺跡、近世の錫杖が出土した佐倉市新町遺跡、近代佐倉連隊の建物とその下から近世遺構が検出された佐倉城跡という3つの遺跡から、個性豊かな出土品を集めました。

本展示が多くの方々にとって、印旛地域の歴史に関心を深めていただくと同時に、文化財保護への御理解に寄与できますことを心から願っております。

また、当センターでは今後も継続的に様々な時代の遺跡を調査してまいります。それらの成果につきましてはホームページ、広報誌、YouTube等で随時お知らせしておりますので、ぜひご覧ください。

最後に、展示遺物と写真資料の借用に御協力を賜りました佐倉市教育委員会文化課、印西市教育委員会生涯学習課、御後援いただきました印旛地区文化財行政担当者連絡協議会、ならびに関係諸氏に心より御礼申し上げます。



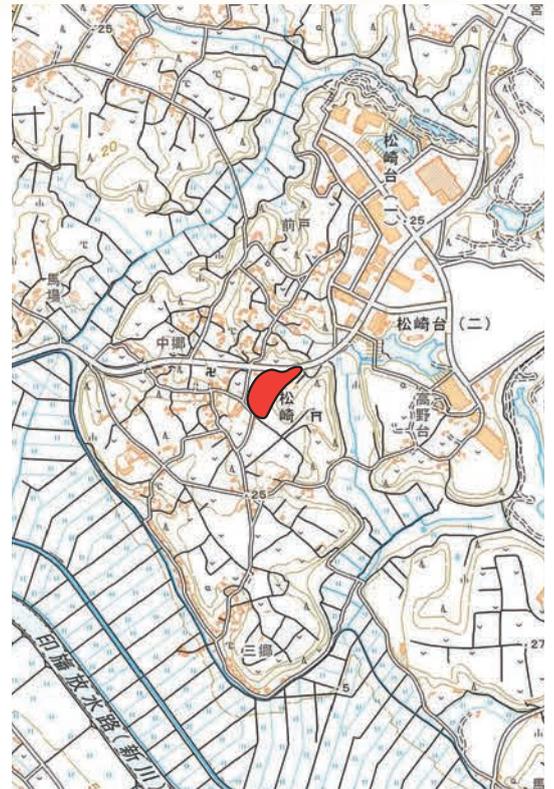
展示遺跡の位置

東海道遺跡 —突如現れた縄文時代後期のムラ—

東海道遺跡は、印西市の南西部、印西市松崎字東海道1314番2他に所在し、八千代市との市境を流れる神崎川と新川の合流点に近い標高約25mの台地上に位置しています。発掘調査は市道の整備に伴って令和元年8月から断続的に行われ、令和3年3月に3,752㎡の調査を終えました。調査区はI区からIV区に分かれ、今回は旧石器時代に続き、縄文時代の紹介をします。

縄文時代の集落はIV区で総数17軒の住居が検出し、このうち大半は南西部に集中しています。南西部の上層には塚が所在していましたが、調査の結果、古墳を塚に転用して利用したことが分かっています。縄文時代の住居群はその墳丘下から発見されました。残念ながら塚として利用する際に周辺の地形も整地されてしまったため、大半の遺構、遺物の遺存状況は良くありません。しかしながら、調査区北側の17号住居跡からは良好な後期初頭の土器が出土し、墳丘下の遺構からも同時期の遺物が多く出土したことにより、称名寺式期から堀之内1式期の短期間に造営された集落であることが分かりました。

住居跡の形態は、5mから8mの円形を呈するものが大半を占めると思われますが、塚を築造する際に削平されたとみられる一部の住居は方形や不整形円形を呈しています。短期間ながら、土器型式はバラエティーに富み、関東地方の堀之内式^{しょうみやうし}の他、福島県を主体とする綱取式^{つなとり}、新潟県を主体とする三十稻場式^{さんじゅういなば}の出土がみられます。また、周辺で縄文時代後期の土器が出土する遺跡は14遺跡所在しますが、まとまった集落跡が確認されたのは東海道遺跡のみで注目されます。



東海道遺跡と周辺の地形



17号住居跡遺物出土状況（北東から）



17号住居跡完掘状況（南西から）

新町遺跡 —近世の精巧な仏具と巨大な室状遺構—

新町遺跡は、佐倉市新町40番1外に所在し、鹿島川下流の右岸1kmの標高33mの台地上に立地します。検出された近世(江戸時代)の土坑からは多数の陶磁器が出土したほか(写真1)、深さが2m以上の井戸状遺構(写真2)の中からはタニシなどの巻貝がまとまって出土しました。このように深い遺構は他にも確認され、その一つとして巨大な室状遺構が挙げられます(写真3)。一見、大きな一つの遺構に見えますが、調査の結果、複数の部屋が重複するような複雑な形状になっていることがわかりました。

本遺跡の出土遺物は近世の陶磁器や瓦がほとんどでしたが、その中で、錫杖頭(写真4)が出土したことが注目されます。錫杖とは、僧侶が仏道修行の際に用いる杖のことで、本遺物はその杖の上部先端にあたります。輪の頂には宝塔ほうとうが表現され、両側には2個の遊輪ゆうりんが付いています。一部に木質が検出されたことから、木の杖の先端部に取り付けられていたことがわかりました。その他にも銭貨など、金属製品が多数見られました。

佐倉市においては佐倉城に代表されるように江戸時代の遺跡が多くみられ、今後の関連する時代の調査成果が期待されます。



写真1 出土した陶器(碗)



写真2 井戸状遺構検出状況



写真3 室状遺構検出状況



写真4 錫杖頭出土状況

佐倉城跡 —近世の大型土坑と謎の瓦—

佐倉城跡は佐倉市の中心部、佐倉市城内町117番地に所在し、国立歴史民俗博物館(歴博)が位置する印旛沼南岸の標高約30mの台地上に立地します。

佐倉城跡(歴博内)の発掘調査は昭和46年以降断続的に行われ、第13次調査は令和3年3月から令和3年6月まで実施されました。調査地点は博物館本館前の駐車場部分です。同地点の調査では近世の掘立柱建物跡や土坑、近代の建物基礎や溝などが発見されました。

近世遺構ではスロープ付きの大型土坑(写真1)が注目されます。スロープの長さは約9m、土坑本体は幅が10m、長さ11m以上で、深さは2.3mです。全長20mを超える大型土坑で、このような遺構は佐倉城跡では初めての発見です。大型の土坑は東京都内では多数確認されており、造成工事に必要な土を採掘した後に、ゴミ穴に転用したものとされています。そのためか内部からは中国産磁器、国産陶磁器、瓦、金属製品など多種多様な遺物が大量に出土しました。遺物から土坑が掘られたのは18世紀初頭、大量の遺物が廃棄されたのは18世紀末葉前後と思われます。特に注目されるのは額に皺をもち、大きな目と鋭い牙をもつ鬼のような顔の瓦です(写真2)。いつ頃作られ、どこの屋根に葺かれていた瓦かは不明です。

大型土坑の上面に築かれていたのが、近代の佐倉連隊の建物跡です(写真3)。建物は外側が帯状、内側がブロック状で、石を用いた基礎地業を行っています。石の配置からこの建物は東西100m、南北190mであったものを北と西に拡張したものと考えられます。土坑上部の軟弱な箇所では、基礎石を支えるために大型土坑内に木杭を3本1組で敷設しました(写真4)。基礎石には「百メ目ひやくかんめ妖怪石ようかいし」と刻まれた大きな力石や、僧侶名が彫られた石などがあり、佐倉城周辺の寺の石塔や、墓碑などが再利用されてきたことがわかります。



写真1 スロープ付きの大型土坑



写真2 鬼のような顔の瓦



写真3 佐倉連隊の建物跡



写真4 大型土坑内の木杭

歴史年表

※太字は展示遺跡

年代	時代	展示遺跡と印旛郡内の主な遺跡	全国主な遺跡	主なできごと
3万8千年前	旧石器時代	東内野遺跡（富里市）		細石器が使われる
1万2千年前	縄文時代	草創期 南大溜袋遺跡（富里市）	鳥浜貝塚（福井県）	氷河期が終わり気候が温暖化する 土器が作られ始める・弓矢が 発明される
7千年前		早期 間野台貝塚（佐倉市） 上座貝塚（佐倉市）		竪穴住居が作られる 炉穴が作られる
5千年前		前期 木戸先遺跡（四街道市） 和良比遺跡（四街道市）	三内丸山遺跡（青森県）	気候が温暖化し、海面が上昇する 環状集落が形成される
4千年前		中期 生谷松山遺跡（佐倉市） 長田雉子ヶ原遺跡（成田市）	加曽利貝塚（千葉県）	大型の貝塚が形成される
3千年前		後期 東海道遺跡（印西市） 宮内井戸作遺跡（佐倉市） 井野長割遺跡（佐倉市）	亀ヶ岡遺跡（青森県）	土偶・石棒などが多く作られる
2千年前		晩期 吉見台遺跡（佐倉市） 荒海貝塚（成田市）		

1600	江戸時代	佐倉城跡（佐倉市） 弥勒東台遺跡（佐倉市） 新町遺跡（佐倉市）	下総佐倉 油田牧跡（千葉県）	1603 徳川家康が江戸幕府を開く 1610 土井利勝が佐倉城入府
1800				1837 堀田正睦が老中になる
1900	明治・大正・昭和	佐倉城跡（佐倉市）	旧新橋停車場跡及び 高輪築堤跡（東京都）	1868 明治維新 1873 佐倉連隊の兵舎建設が 始まる



◇交通機関◇東関東自動車道佐倉ICから県道65号線経由で10分/JR佐倉駅からバス約7分、ちばグリーンバス「石川入口」下車



公益財団法人

印旛郡市文化財センター

千葉県佐倉市春路1-1-4 TEL 043-484-0126 <http://www.inba.or.jp/>



QRコードを読み込んで
スマートフォンサイトへ
今すぐアクセス!